

Special Interview

# 綾野剛

## 現場の空気から吸収してきた、しなやかな役者魂。

派手な芝居はしていないのに、画面に現れるや、いともさりげなく見る人の心をさらってゆく。そんな透明感と存在感を兼ね備えた、いま一番気になる俳優が、綾野剛。ドラマ『空飛ぶ広報室』では不器用な自衛隊の広報部員を、「最高の離婚」では、自由奔放な青年役。人体に咲く花を描いた映画『シャニダールの花』では主役の植物学者を演じて、幻想的なストーリーに切ないリアリティを与えた。時代劇から現代劇まで、演じる役柄は幅広く、キャラクターのどれもに溶け込んでしまう役づくりの自然さは驚くほど。役はあえて事前につくり込まない主義とか。

「よくも悪くも“役づくり”って、分からなくて。初めは頭でっかちだったけど、それじゃ何にも生み出せない、自分が変わらないといけない。今は、役づくりに事前の予測や計算はしなくて。真っ白な状態で現場に行ってるようになる。役に生きるのには、監督の『スタート』と『カット』のかけ声の間だけ」。

2014年1月にスタートするドラマ『S-最後の警官-』では、警視庁特殊部隊“SAT”の蘇我伊織を演じる。アクションも多く、これまでにないハードな役どころ。撮影前には、激しいワークアウトを自らに課して、冷静沈着な狙撃手というキャラクターにふさわしい身体をつくり込んだ。「ドラマを観る人にとっては、目に映るものが全て。まず表層的なことからつづいていかな」と。

学生時代は陸上競技での記録もあるアスリート。一瞬の勝負に向けて自らの心身を極めてゆくアプローチは競技と共通するところがあるのかもしれない。でも芝居をするうえでは「現場の力」を強く意識している。

「映画もドラマも、一人でつくっているわけじゃないんです。監督、カメラマン、照明ほかスタッフの方の存在があって、演じる自分がある。自分は裏方であって、主役ではない。役が主役だと思うんです」。

クールなルックスに違わぬ、ストイックで職人的な、演じることへのスタンス。現場での集中力の支えになっているものは何かと聞いてみれば、「思いやりを持ってやること」と答えが返ってきた。

「一番大切なのは、コミュニケーションを十分にとること。共演者やスタッフの全員が共通認識をもっている、同じ方向でものをつくってゆく、というのが現場の力なんです。共演者も、ホントに素晴らしい役者さんばかりですから」。

### 『S-最後の警官-』

ビッグコミック連載中のコミックのドラマ化。熱血漢の警視庁特殊捜査係“SAT”隊員神御蔵一號(向井理)と対照的な、クールな警視庁特殊部隊“SAT”の隊員蘇我伊織(綾野剛)。立場と性格の異なる2人を中心に織り込まれる、スケールの大きなアクション&サスペンスドラマ。TBSテレビにて2014年1月放映。



**Profile** 1982年生まれ、岐阜県出身。『仮面ライダー555』で俳優デビュー。映画、TVドラマ、CMとメディアを超えた活躍に注目が集まる。2014年にはドラマ『関金ウジマくん Season2』、映画『白ゆき姫殺人事件』『そのみにて光輝く』『ルパン三世』など出演作が自白押し。

スタイリスト/滝田石和寛 ヘア&メイク/石島麻由



## Radio

前田典子×MAKOTO Sweet'n marble loversパーソナリティー2人が語る

# 「かわいい京都×伝統」Vol.5 蚊帳ふきん

α STATION FM KYOTOのSweet'n marble loversのパーソナリティー、MAKOTOさんと、マエノリこと前田典子さんのこのコーナーでは毎回、祇園の芸妓さんとしても活躍した、京都のプロフェッショナルMAKOTOさんと、モデル目線でかわいい京都を発見する前田典子さんのトークをお届けします



前田典子

**Profile** 大人女性からの絶大な支持を誇るカリスマモデル。テレビ、ラジオのパーソナリティー、ファッションプロデューサーとしても活躍中。好きなデニッシュは和菓子のモンブランデニッシュ。公式ブログ <http://ameblo.jp/maenori/#>

MAKOTO

**Profile** 元・祇園甲部の芸妓。そしてミュージシャン。京都から和と洋のエンターテインメントを発信する女性アーティスト。好きなデニッシュはくるみキャラメル。公式ブログ <http://ameblo.jp/peace1love2/>

「大切な食器には、いいおふきんを使いたい」(前田典子)

**MAKOTO** 食器用のおふきんは、最近いろいろな素材やデザインが出ていますね。絹やガーゼ、それにカラフルなものも。典子さんは、普段はどんなものを使っていますか？

**前田** このあいだ、この「蚊帳ふきん」をいただいたんですけど。これは薄いの吸水性がよくて使いやすいですよ。

**MAKOTO** 「蚊帳ふきん」で、蚊よけに吊す蚊帳に使われる、網目になっている生地からできてるおふきんなんですけどね。そのせいか、さらっとしていて、すぐに乾いてくれるんです。真夏も清潔に使えるのが、なによりうれしいですよ。

**前田** サイズが、最初は少し大きいからと思ったのだけど、使ってみると軽しい、グラスの底までしっかり拭けるのがいいんですよ。

**MAKOTO** そうそう、この大きさだし、かわいい模様もつ

「いろいろな使い方が楽しめそう!」(MAKOTO)

いてると、拭く以外の目的…キッチンが目隠しや、ランチョンマット、お弁当を包むのにもいいと思います。ちゃんと女子の気持ちも考えられていますよね! (笑)。

**前田** 私もランチョンマットとか、キッチンのアクセントとして使ってみたいな。

**MAKOTO** 普段は、どんな食器を使っていますか？

**前田** シンプルな白色、日本の土もの、北欧のかわいいお皿などいろいろミックスして使うのが好きですね。今は「あじさい色」のおふきんを使っているのですが、淡い色なのでどんな器とも合うんですよ。大切な食器は、いいおふきんで手入れしたい。MAKOTOさんは、どのおふきんがお好きですか？

**MAKOTO** 「さくら色」と「舞妓さん柄」がお気に入りです。舞妓さん柄はプレゼントしていただいたのですが、京都限定

Sweet'n marble lovers  
α STATION FM KYOTO 89.4  
α STATION FM KYOTO (89.4MHz)  
●毎週日曜日 19:00~20:00  
前田典子・MAKOTO

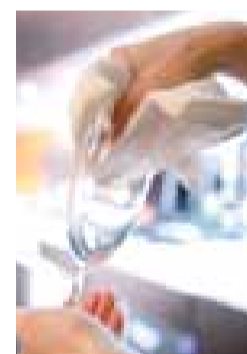
◎豆知識コラム  
**What's 蚊帳ふきん?**  
「ふきん」の機能性・デザイン性が再び注目されている今、奈良の特産品・蚊帳生地で作った「蚊帳ふきん」が人気を集めています。特徴は、薄手なのに吸水性が高く、速乾性に優れていること。使うほどに手になじみ、やさしい肌触りへと変わります。  
手前「舞妓さん」「京の四季」など京都限定柄をあしらった「京都ふきん」1枚400円(税別)。奥「全4種の色に植物の名前が名付けられた「花ふきん」1枚700円(税別)。ル・グランマール カフェ クラッセにて販売(データはp.13)。

なんです。

**前田** カワイイ〜! ご当地柄があるんですね。いかにも京都っぽい感じで、おみやげにもぴったりですね。

**MAKOTO** 使っていくうちにふんわりとやさしい風合いになっていくのも、よろしおすえ。

**前田** これこそまさに、日本の手仕事の素晴らしさですね。



蚊帳ふきんは、グラスに繊維を残さず、キレイにふけます。まずは食器拭き、次は台拭きにと、長く愛用したい一品です。

BRIGHT MORNINGの山添まりさん、AFTERNOON DELIGHTのMEMEさんに聞きました

# 「ホリデイ気分の音楽って?」

**山添まり**  
**Profile** 東京出身。好きなジャンルはウエストコースト、ロンドンパンク、ブリットポップ。ライブの感動をリスナーと共有するのが好き。好きなデニッシュはショコラブレース。

## リラックスとワクワク感が詰まった『The 1975』

たまには毎日のしがらみから解放されて何も考えずに過ごしたい。究極のホリデイとは何もしないこと。PCや携帯電話は家に残して、持って行くのは本と音楽だけという贅沢。そんな時に私が持っていきたいアルバムの一つが『The 1975』。肩の力を抜いて聴ける楽しさとワクワク感が詰まっていて、パーティーチュームもたっぷり。ずっと応援していた彼らは2014年の2月、ついに関西にやってきます。是非お見逃しのないように。

**FM802**  
meet the music on the radio  
FM802 (80.2MHz)  
**BRIGHT MORNING**  
●毎週金曜日 7:00~12:00  
DJ: 山添まり  
clip your heart (11:00~11:20)  
テーマは「音楽との出会い=感動」。リスナーから寄せられた、心に残る音楽のシーンにちなんだメッセージと、旬の音楽をお送りしています。



The 1975 (UICP-9048)

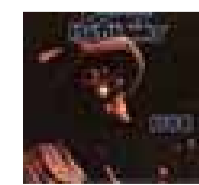
**MEME**  
**Profile** 神戸出身。通き通ったあたたかい声、スキーやヨガなど多彩な趣味にまつわるトピックスでリスナーの心を癒す、国際派パーソナリティー。好きなデニッシュはチーズ&ペーコン。

## ライブの臨場感が非日常を盛り上げてくれる

非日常感を盛り上げてくれて、旅に連れて行きたくなるアルバムとなると、この一枚。デジタルでは表現できない生命力と温もりのある深い感動にあふれています。会場の一体感には感涙。ライブならではの魂のつながりを感じます。当時26歳だったダニー・ハザウェイ。その若さでこれほどまで自由に、優しかったたく、そしてときに切なく表現していたなんて。ライブ会場にいる気持ちでワクワクしてみたいかがでしょうか。

**FM COCOLO**  
(76.5MHz)

**AFTERNOON DELIGHT**  
●毎週月曜日~木曜日 14:00~17:00  
DJ: MEME  
Blooming heart (15:00~15:10)  
曜日ごとにバラエティにとんだ話題を“真心をかたち”をテーマにお送りしています。木曜日はリスナーからのメッセージをご紹介します。



Donny Hathaway LIVE (海外盤)